

令和4年度第5回北海道科学技術審議会計画部会議事録

日時：令和5年1月24日（火） 15：00～15：50
場所：公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）1階会議室
出席者：
（委員）荒川部会長、入澤委員、佐々木委員、鈴木委員、寺内委員、福島委員、
桃井委員、渡辺委員
（事務局）松田科学技術振興担当局長、藤嶋科学技術振興課長、後藤科学技術振興課主幹

【開会】

（松田局長）

ただ今から、北海道科学技術審議会第5回計画部会を開催いたします。本部会は公開となっており、開催後に議事録を作成するため録音させていただきます。また、発言の際にはマイクをお持ちします。マイクの使用にあたっては、感染症対策としてマイクの消毒を行いますので、発言が終わりましたら事務局にお渡しくださるようお願いいたします。それでは、ここから先の進行につきましては、荒川部会長にお願いしたいと思います。

【議事1 「第4期 北海道科学技術振興基本計画」(案)について】

（荒川部会長）

本日の議事ですけれども、第4期北海道科学技術振興基本計画の原案について、4回の部会と2回の審議会を経て本日に至っております。12月には道民に対するパブリックコメントを実施し、今回はパブリックコメント、それから関係機関からご意見があれば、そのことについて、お諮りしたかったのですが、計画案を変更する必要があるご意見は特段なかったと伺っております。その経緯を踏まえ、まず、事務局から原案について、ご説明願います。

（後藤主幹）

科学技術振興課の後藤です。最初に、資料1-1をご覧ください。計画の策定経過等についてです。「2策定の経過」ですが、昨年2月に知事から審議会へ計画策定についての諮問がありました。これを受けて、計画部会が設置され、これまで4回の部会を開催したほか、審議会でも2回、また、6地域で地域懇談会を開催し、計画の内容についてご審議いただきました。

また、計画案策定の各段階において、道庁内各部、道総研、地域懇談会関係機関に意見照会したほか、12月のパブリックコメントにあたっては、別紙にありますとおり、行政機関をはじめ、様々な機関に意見照会を行ったところです。この結果を踏まえて、本日の第5回となる計画部会でご審議いただき、2月3日の審議会でご答申をいただいて、この答申に基づき3月に次期計画を策定する予定となっております。

「3 公表方法等」についてですが、次期計画は当課ホームページで公表し、あわせて関係機関へ通知します。

なお、ホームページでの公表という特性を活かし、(3)にあるとおり、資料編は原則として毎年度関係機関へ確認し、時点修正を行うこととしたいと思います。この点が、今回の計画策定にあたっての変更点です。

次に参考資料1をご覧ください。計画策定にあたり、関係機関への照会やパブリックコメントの結果についてまとめたものです。「1 意見募集の方法」ですが、先ほど資料1-1で説明した関係機関に対し意見募集を行ったほか、「道民意見手続に関する要綱」等に基づき、計画案を北海道ホームページなどに

掲載して意見募集を行いました。2にあるとおり、意見募集は9月から1月にかけて行っております。

「3 意見募集の結果」ですが、次のとおり、「道外出身者の卒業生が道内にとどまるための取組」、「宇宙産業への道の積極的な支援の必要性」、「CCSに関する情報提供」の3つの意見がありましたので、ご参照ください。

補足となりますが、11月の計画部会、審議会でご審議いただき、ご了承いただきました原案をもとに、道議会へ報告したものについて、パブリックコメントにより意見募集しましたが、修正が必要なご意見等は無く、事務局において若干の訂正は行いましたが、基本的に原案のとおり、本日計画案としてお示しするものです。

続いて、資料1-2をご覧ください。先ほどご説明しましたとおり、11月の審議会から内容に変更はございませんが、計画案の概要についてまとめたものとなっております。説明は省略いたしますので、ご参照いただければと存じます。

資料1-3をご覧ください。計画本文となります。本日欠席の山田委員から事前に、ご指摘をいただいております。表記揺れの修正等を行っております。修正箇所の例としては3ページの上の表にSDGsについての取組について3つのゴールを目指すとの表現をしておりましたが、SDGsはそれぞれの目標が相互に関連しあっていますので、他の目標も含めて達成を目指すこととしました。基本的に修正箇所については趣旨に変更はございません。

また、同じく欠席の扇谷委員からは、本日お示しする案について、特に意見無い旨ご連絡をいただいております。詳細については前回と同様となりますので、のちほどご参照いただければと存じます。

資料1-4をご覧ください。資料編の案でございます。資料編については、本日初めてお示しするものですが、表紙をめくっていただき、1ページには計画の策定経過、2ページには本計画部会、審議会の委員の皆様のお名前等を掲載しております。

3ページの資料2は北海道科学技術振興条例を掲載しております。

5ページの資料3「指標一覧」は、本計画の指標の概要について取りまとめたものです。令和5年度の推進状況を取りまとめた際には、見開きの右ページに実際の推進状況を掲載し、更新していく予定です。

6ページの資料4「道内各地域における研究開発等の取組事例」は、本文の「第4章 地域における取組」で取り上げた地域懇談会を開催する、函館、旭川など6地域のほか、道内各市町村に研究開発等の取組事例を照会し、取りまとめたものです。

資料5から7は大学をはじめとする関係機関の一覧となります。現在確認中のものもあるため、本日の資料では「確認中」と記載しております。

最後に、資料としてはご用意しておりませんが、条例改正の検討状況についてご報告いたします。資料1-3の計画本文の2ページをご覧ください。2つ目の枠「科学技術に関する国の動向」の一つ目の○にありますとおり、科学技術・イノベーション基本法が改正され、「人文科学のみに係る科学技術」が追加されました。これを踏まえ、「人文科学と自然科学の融合」の項を設け、法改正で振興の対象が広がったことなどを記載しました。

こうした状況を踏まえまして、資料1-4の資料編の3ページの「北海道科学技術振興条例」をご覧ください。第1条の目的に、「科学技術（人文科学のみに係るものを除く。）」とあるのを、法の振興の対象と同様に、「科学技術」と条例改正することとし、2月に開催される令和5年第1回北海道議会に提案しようとするものであります。条例改正案については、昨年11月の審議会においてご了承をいただいているところであり、本日はその経過について、ご報告するものです。私からの説明は以上となります。

【議事 2 意見交換】

(荒川部会長)

ありがとうございました。皆様からお気づきの点があれば承りたいと思います。

(佐々木委員)

資料編について、住所・電話の右側にメールアドレスを入れられないでしょうか。ホームページは正式名で検索すればすぐに分かると思いますが、いま電話で問い合わせるということはほとんどありません。

(後藤主幹)

機関によって公表して構わないところ、非公表の意向がありますので、整理して公表したいと思います。

(荒川部会長)

利便性を加味して検討願います。

(入澤委員)

例えば、20ページのスタートアップの部分なども*（アスタリスク）がたくさんありますが、読み物として見づらい印象があります。

(松田局長)

初出のところのみにしようとも考えたのですが、途中から見た方にとっては入っていた方が良いのかなと思いました。

(入澤委員)

イノベーションという単語一つを取っても全てに入っていますので、見づらいです。それと、個人的には同じく20ページの指標部分の半角カタカナにするよりは、数字の方にすべきかと思いました。

(藤嶋課長)

数字で2桁以上のは半角といった決め事があります。半角カタカナは全角とするなど、一部、表記ゆれがありますので、直したいと思います。

(松田局長)

*も近接して同じ単語に大量に付いている部分は外したいと思います。

(荒川部会長)

ご指摘あった部分は修正願います。

(寺内委員)

21ページの連携プラットフォームの説明について、簡略化した記載で、これはこれで良いのかもしれませんが、もう少し知りたいと考えた際に、どのように調べたら良いか分からないかと思います。例えば

チャレンジフィールドに関しては山田委員が一生懸命ホームページを作成されていますので、誘導して、見てもらえるようにできれば良いと思います。

(松田局長)

ホームページのアドレスも載せたいと思います。

(福島委員)

公表に関して、毎年次時点修正を行うということについて、例えば指標一覧が資料編の5ページにありますが、数字を追いかけながら進捗を把握してということでしょうか。

(松田局長)

そのとおりです。

(福島委員)

作っただけで終わらないようにしたいと思ったものですから、確認しました。

また、資料編の5ページの指標の部分について、例えば「道内大学等における共同研究の件数」があちこちに出っていますが、各項目に係るので再掲表記しているということでしょうか。

(松田局長)

そのとおりです。指標を並べて関係する章を記載する方がよろしいでしょうかね。

(福島委員)

上から見ていくと違和感があって見づらかったです。

(荒川部会長)

指標を基準にした並べ替えも良いですが、項目は崩さずに、単純に再掲の中身の記載を抜くだけでも良いかもしれません。

(松田局長)

両方作成してみて、最終的にどちらかにしたいと思います。

(渡辺委員)

本計画の期間は5年ですが、その間に見直すことはあり得るのでしょうか。

例えば、パブリックコメントにCCSの話もありましたが、可能性がないわけではありませんので、気になりました。

(松田局長)

計画に記載のある内容を大きく覆すようなことがあれば、修正等が必要になると思います。科学技術を取り巻く重大な変化が起きなければ、5年間は本内容でいきたいと思います。

(寺内委員)

資料3の指標3について、知的財産権の括弧書きの中に、実用新案権をことさら書く必要はないと考えます。実用新案権を持っている大学はほとんどなく、北大もゼロです。中小企業であれば出しているところはありますが、「大学等の」と記載しているので、実態と合わないかと思えます。

(松田局長)

ここは「特許権、実用新案権、育成者権等」としており、「等」がありますので、実用新案権の記載は外します。

(荒川部会長)

ほかになれば、部会も本日が最後になりますので、皆様から一言ずついただければと思います。

(福島委員)

このような形でまとめていただき、ご尽力に感謝します。携わらせていただいて、自身も勉強になりました。今回のパブリックコメントも件数が少なかったようですが、私も委員として、機会があれば本計画について紹介したいですし、事務局の皆様も、メンテナンスやアップデートの話もそうですが、せっかくですので広く使われて、産業界も含め一つの方向に向かっていきたいと思えますので、引き続きのご支援をお願いします。

(桃井委員)

私は金融機関の人間ですので、実務で科学技術に携わっている皆様とは少し違う視点からというお話を最初の方の部会でさせていただきましたが、皆様のご意見を伺う中、議論の中で、私の方が色々勉強させていただいたと思っております、改めて感謝申し上げます。

計画については、これまでの意見を踏まえたものですので、特段内容にコメントはないところですが、改めて読み直した時に、途中の部会でも意見があったとおり、重点取組分野のマトリクスについて、分野が縦で、横断的視点が横というのは、概念としてはそのとおりですが、文章に落とすと5分野が並列のようになってしまって、掛け算のところが重要であることを表現するのが難しい点が最後まで残ったと思います。このようなマトリクスの視点は増えていくと思えますので、他の事例も見ながら、どのように文章で上手く表現できるかという部分をご検討いただくと良いと感じました。本当に充実した良い内容になったかと思えます。どうもありがとうございました。

(渡辺委員)

私もしばらく科学の関係に携わっていなかったのですが、改めて皆様の意見を聞きながら勉強になったと思っています。昨年、日本人ではノーベル賞は一人もおらず、非常に残念でした。そういった面でも科学技術は大事だと思っており、ちょうど本計画の改定期に当たって、部会において私の意見も多少入れていただいて、携われたことは非常に良かったです。これを機に、北海道を起点として、科学を盛りたてていければと思います。

(入澤委員)

私は IT の立場で参加しておりますので、科学技術の振興としてデジタルの部分はすごく大事だと考えており、ここ 2、3 年テクノロジーの最先端を追っていますが、AI、IoT は聞き古して長いとっていて、せっかくなので令和 5 年度からの計画には新しい言葉を入れないといけないと個人的には思っていました。しかし、そこまで大きなパラダイムシフトが起きるとは思えず、実際にそのようなテクノロジーはありません。Web 3 など取り上げられていますが、科学や社会そのものを変えるインパクトはないと私は思います。テクノロジーの進化も、これまで倍々ゲームで来ていたのが、ちょっと踊り場になっています。

このような時だからこそ、新しいものを作っていかなければいけないと思いますし、改めて、北海道には研究機関、大学がたくさんあると分かり、道総研さんなどが、こういったテーマを元に研究して、それがスタートアップに繋がって、世に出て行くストーリーが出てくれば嬉しいです。混沌とした世の中だからこそ、この計画を元に北海道らしいものが作れば、頑張った甲斐があると思えました。

(佐々木委員)

皆様お忙しい中、回数も意見交換も活発に行ってきたと思えました。前期の部会にも入っていたのですが、本部会の皆様の意見はすごかったと思えますし、まとめていただいた事務局も大変だったと思えますので感謝申し上げます。

北海道科学技術審議会自体、親会は大学の先生が多く、私が入って良いものかと思えていましたが、今後は是非、民間の方にも知らせるような何らかの手段があると良いです。せっかく作りましたので、先生方だけでなく、民間の方も、北海道の大学で行っていることやプロジェクトと一緒に参加してみたいと思っていただく、届くような施策をお願いしたいです。

(鈴木委員)

まずは事務局の皆さん、ご苦勞様でした。私自身たくさん発言してしまっ、ご苦勞をおかけしましたが、大変楽しい議論の場でした。先ほどの CCS の話などもそうですが、足下の課題は、どんな新しい技術にもあり、しっかりした地質調査やガイドラインによって、リスクを減らしながら有用にしていくことなど様々やるべきことがあると思えますが、そこに科学技術の発展の根幹があるわけです。ある意味、課題のない新たな取組みは科学技術で解決するテーマにはなり得ないともいえます。そのような課題をしっかり把握、対応し、社会貢献することに、道総研もこれまで以上に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

昨年末に道総研は色々なことがございまして、皆様の信頼を大きく低下させることになり、我々も再発防止に取り組んで、道総研は変わったと言われるよう現在、さまざま見直しを行っているところで、引き続き、厳しいご指導の程、改めてお願いしたいと思います。一年間、ありがとうございました。

(寺内委員)

事務局の皆さん、お疲れ様でした。私も本計画は北海道の特徴をさらに伸ばす形に、どんどん意見が出て変わったので、すごく良かったと思えます。北海道知的財産戦略本部の委員としても携わっていますが、最初はすごくアバウトでして、やはり北海道の強みが何かを考えて、それを伸ばす計画にしないと他と一緒になりますので、良かったです。

私も北海道の産学連携において、北大の強みは何かを考え続けていて、そうでないと東大に行ってしまう

いますので、なぜ北海道までわざわざ企業が来てくれるかを常々考えています。北海道の強みを突き詰めて、それを伸ばしていく。それ以外の部分もちろんありますが、北海道には国も注目していて、概算要求でスタートアップも当方の部門が本部に格上げして4月から大きくなることが決まり、様々支援いただいています。そのような意味では、ますます北海道の強みを発信していければと考えております。

【議事3 その他】

(藤嶋課長)

本日のご議論、誠にありがとうございました。今後、2月3日の審議会に計画案を報告し、議論を経て、審議会会長から知事に次期計画案の答申がなされます。その後、道庁において計画案を策定し、道議会での議論を経て本年3月に計画を策定することとなります。

(松田局長)

委員の皆様のご尽力をもって本計画案をまとめることができまして、心から御礼申し上げたいと思います。5月に最初の部会を開催した際に様々なご意見をいただき、それ以降、荒川部会長はじめ委員の皆様、この部会の場だけでなく、お忙しい時に職員が押しかけて直接お話を伺いながら作り上げていったこと、お力添えをいただけたこと、本当にありがたいことだと思いました。

私も昨年4月に当職になりまして、科学技術と縁のない仕事をしていたものですから、言葉の一つから意味を調べ始めたのですが、色々なご意見をいただき、どんどん厚みと広がりをもっていったことに、エキサイティングに取り組めたことは、本当に良い経験になったと思います。本当にありがとうございました。

(荒川部会長)

本当に委員の皆様には積極的かつ建設的なご意見をたくさん賜りまして、ありがとうございました。審議会の方でも分かりやすい、変わった、良くなったというご意見をいただいております、皆様のご尽力によるものと考えており、つたない部会長でしたが皆様に感謝申し上げます。

食に取り組んでいる立場として気になっているのは、北海道の食の状況がどうなるのか非常に危惧しています。エネルギー、肥料、飼料の問題など、ここでまさに北海道の科学技術がしっかりと、それを支える本当に良い時期だと感じるものですから、本計画ができましたけれども、これが北海道の危機を救うような役立つ計画であって欲しいと願っている次第です。この後、審議会に報告しまして、最終的なゴールとなりますので、何卒よろしくお願ひしたいと思います。どうもありがとうございました。

以上